

副作用解析担当

- ・ 輸血副作用の防止のため、非溶血性輸血副反応の発生機序、原因物質、検査用や予防法を研究

1 輸血により発生する副作用の研究

輸血副反応に関する因子や指標となる物質の特定

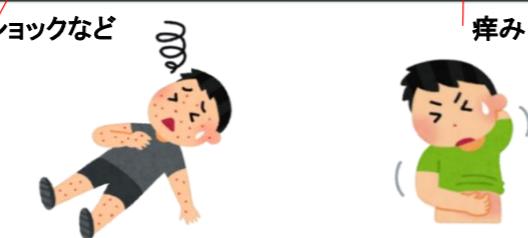
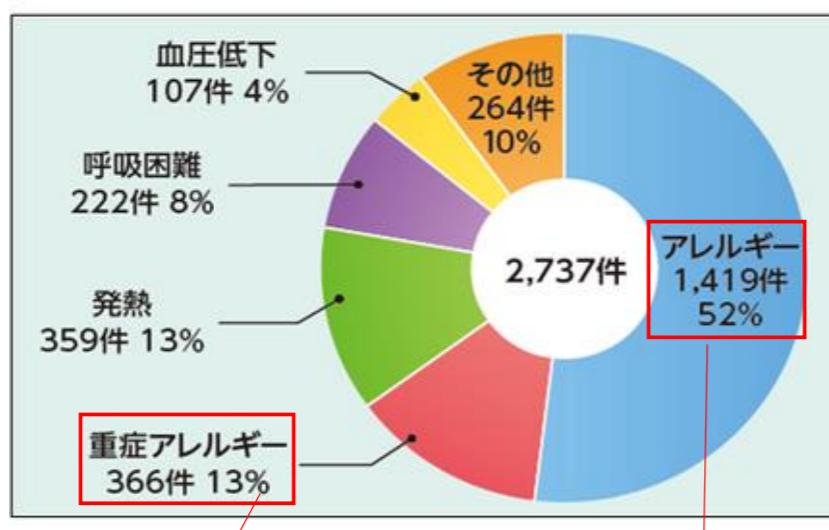
2 新検査法の開発、検証

二次元電気泳動による新規抗原・抗体検査法の開発

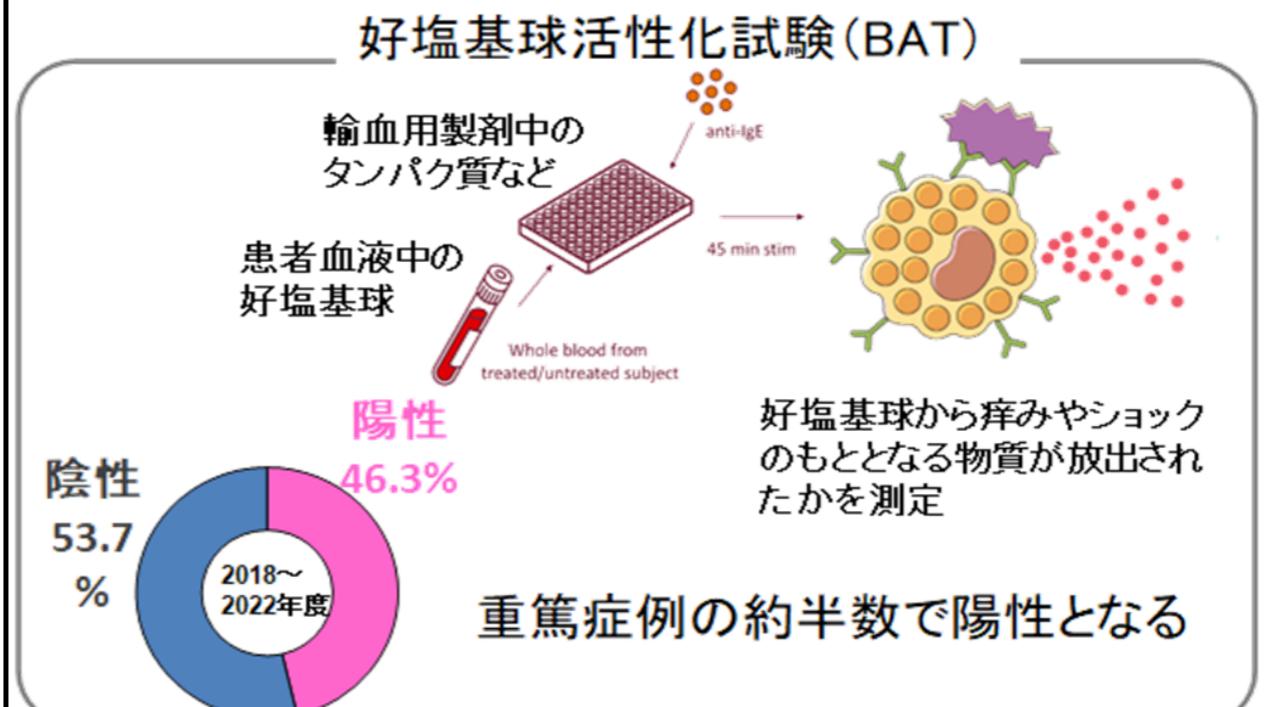
抗血漿タンパク質抗体の検出

輸血副反応調査における好塩基球活性化試験(BAT)の有効性の検証

【非溶血性副作用】



【新技術の開発と導入】



【課題と今後の研究】

- ・ 副反応を起こした患者の血液の輸送に時間がかかる場合、もしくは血球が減少している患者では正しい結果が得られない
⇒不死化造血幹細胞(安定して存在する血液のもととなる細胞)から好塩基球を作成することで、いつでも安定した結果が得られる
- ・ ハプトグロビンなど一部を除いて原因の特定にはつながっていない
⇒副反応を起こした血液製剤中や患者のタンパク質を詳しく調べる